

★★勉強が「できる」と「わかる」の違いに思う事★★

思考錯誤しながら『誰一人取り残さない』算数の授業では、様々な教材を手作りして取り組みをするものの本当に思うように進まない現状に思い悩まされています。そろばんの珠の読み方の復習に始まり、子どもたちがより深く考えるようにトランプカードの遊びを取り入れた52枚の数字カード、また王冠を使って九九作対抗戦など取り入れる中、いつも私の中に生まれる「なぜ？」この何故は、毎回同じで出題準備している時から手を挙げた生徒。準備をしている段階だから、もちろん出題をしていなくその中で手を挙げるのです。私もつい感情的になり手を挙げた生徒を指し「やってごらん下さい。」と前に来させると、何をやればいいのかわからないとジェスチャーで応えるのです。毎回この繰り返しでほとほと疲れてしまいます。しかし、こうした陰で授業についていけず、ただただこの時間が過ぎるのをじっと固まって待っている子どもがいるのを忘れてはいけなく常に心掛けて授業をしています。わたしの授業は、勉強のできる優秀な生徒を作り出すのではなく、誰一人取り残さないことが目標です。勉強ができることはその子どもに自信につながるとは思いますが、勉強ができるとわかるの意味は違い、勉強がわかるようになることがその子どもの自信につながり、さらにもっと頑張ろうという意欲につながります。先日、4年生で王冠を使い、九九作りゲームを対抗した時の事でした。答えが36になる九九を黒板に書いていった時の事「 $4 \times 9$ 」「 $9 \times 4$ 」「 $6 \times 6$ 」と生徒には聞かず、私が黒板に書きこんでいった時、この学年では過齡児と思える生徒がノートの裏表紙に掲載してあるかけ算表を見ながら「 $3 \times 12$ もあるわ」と誇らしげに

答えたのでした。イギリスのポンド式のかけ算表が記載されていてそれを見て答えたので間違いではありません。しかし、その生徒を前に出し九九作り対決をさせると「 $4 \times 9$ 」「 $9 \times 4$ 」の意味が分からないのです。この生徒ばかりではなりません。大半の生徒がノート裏表紙に掲載されてるかけ算表を見て答えるから暗記の必要はなく、同じ答えだけど作り出す数の意味が違う事を理解していません。手を挙げて答えられれば「私は勉強ができる」と思い込んでしまわないでほしいいつも私は思うのです。わかるようになれば絶対に楽しくなるのが勉強なんだという事を算数の授業、そろばんを通して子どもたちに体験してもらいたいです。

報告 TOSHIKO



協賛

トモエそろばん様